

## 「これからの日本の港湾」

講師：東海大学海洋学部 篠原正人教授

首都東京みなと創り研究会では、平成25年6月20日（木）に、東海大学の篠原教授を講師に招き、「これからの日本の港湾」と題して、講演会を開催しました。

講演会の出席者は、当研究会（13名）の外、東京都港湾局（18名）、東京港埠頭株式会社（8名）、港湾運送協会（34名）、学生（8名）、プレス（1名）の合計82名でした。

次のテーマの内容で講演が行われ、我が国の港湾政策の進め方や、世界の貨物の流れなどの理解が深まりました。講演の後、質疑応答があり、活発に意見交換があり、盛況に終わりました。

なお、講演録については、現在、作成中です。会員には、完成次第、配布します。

開催日時 平成25年6月20日（木）

場 所 東京港福利厚生センター 8階大会議室



講演の様子



質疑の様子

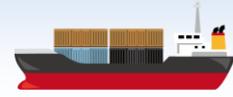
### 篠原教授の講演内容

- わが国の港湾政策概観
- 港湾競争とは何か
- 海上荷動きの現状と将来
- 欧州港湾の例
- 日本の港湾のあり方



# 「国際戦略港湾問題（京浜地域）を考える」—認識と問題提起—

## 提言パンフレットの発行



日本の港湾が置かれている現実を踏まえ、日本の港湾の直面する課題と東京港など京浜地域の港湾が今後取るべき方策について、当研究会は、以下のとおり見解をまとめ、平成25年5月23日パンフレットにして発表しました。

(1) 日本の輸出入貨物の大幅増加が期待できない経済状況にある今日、大規模バースの整備によって貿易貨物量が増加し、産業の国際競争力も向上するなどの政策が、現実のCT需要と乖離して推進されてはならない。

(2) コンテナターミナルへの新規投資は、当該港湾の貨物取扱動向、ターミナル利用者の需要及び外航船舶の航路状況等を見極めて、適切に取り組むべきである。そして、東京港においては、旺盛なターミナル需要に対応するため、中央防波堤外側埋立地、新海面処分場コンテナターミナルの第3バース（C3バース）の整備予算を早急に措置する必要がある。

(3) 東京港埠頭株式会社は港湾管理者の管理指導の下で業務を遂行することが最も効率的であり、国の権限拡大に通ずる埠頭会社合併政策は、地方分権推進の観点からも妥当性がない。京浜地域における東京港埠頭会社の合併は実施すべきでないとする。

(4) 1万5000TEU級以上の超大型コンテナ船が日本に寄港する可能性は極めて低いと考えざるを得ない。同船型に対応できるような巨大バースの建設は、需要動向に格別の留意を払い慎重に対処することが肝要であることを指摘したい。

## パンフレットの目次

### はじめに

- (1) 東京港の位置付けと外貿コンテナ取扱量の動向
- (2) 外航海運の動向と港湾
  - 東京港、横浜港の北米国際トランシップ貨物量の検討
  - 米国向け輸出コンテナ貨物1船当たり積算の比較考察（平均概数）
- (3) 港湾政策の直面する課題

### 参考資料

- 1 コンテナ貨物取扱量
- 2 日本発対米輸出コンテナ取扱量の推移表(トップ10港湾)
- 3 「京浜港の総合的計画—201109」で示されたトランシップ貨物量推移について
- 4 釜山港における北米向け輸出T/S貨物の取扱状況

## 港湾局事業への協力

### 1 港湾工事イメージアップ事業への協力

#### (離島港史Ⅱ 編纂作成への協力)

東京都港湾局離島港湾部が作成予定の離島港史Ⅱの編集をイメージアップ事業により行いました。この編集作業は、編集委員会をもって行いましたが、編集委員会の設置・運営及び助言を当研究会が行うこととなりました。

平成 23 年 10 月 25 日に第 1 回、平成 24 年 3 月に第 2 回編集会議が開かれ、その後、平成 24 年度から調布・大島空港委員会、小笠原空港委員会及び三宅島噴火委員会、港湾漁港委員会が開かれました。また、平成 25 年には第 3 回、第 4 回編集会議が開かれ、資料提供や意見を述べました。現在、現役及び当研究会の会員や関係した OB で議論し、原稿を書き、編集作業中のところです。

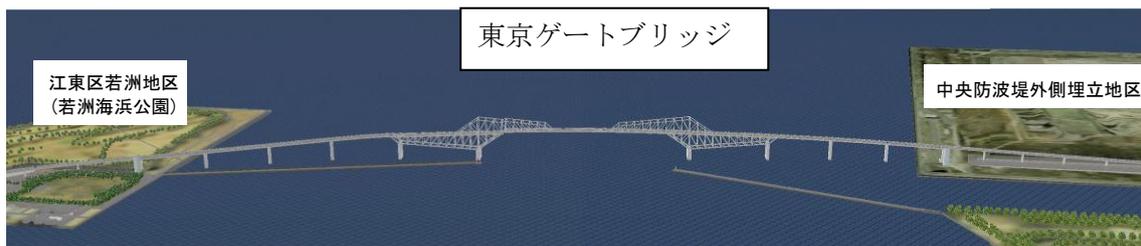


### 2 東京ゲートブリッジ工事誌の資料提供など

東京ゲートブリッジの工事誌で、特に計画やアセス段階で東京都港湾局が検討した内容について、記録にとどめることを目的に平成 24 年度に作業を始めました。工事誌作成に当たっては、東京都港湾局予算により委員会をもうけて実施することになりました。当研究会からは、高見副理事長が委員となり、港湾局委員会に参加して、資料の提供及び意見を述べました。今後、皆様には当研究会からお配りする予定です。

東京ゲートブリッジは、下の写真の通り、江東区若洲と中央防波堤外側埋立地を結ぶ道路で、東京都港湾局が、当初、計画し、アセスメントなどの調査及び設計をしました。その後、国土交通省の直轄になり国と東京都港湾局の役割分担を決め実施しました。

昭和 61 年度から始められた計画・調査や現行廃掃法での基礎杭の打設方法の検討は、東京都港湾局が実施したので、これらの内容を知っている当研究会の会員が工事誌作成の協力をしました。



東京都港湾局資料

### 3、東京港みなと祭りへの参画

平成 25 年 5 月 26 日（土）、27 日（日）に晴海会場を中心に東京みなと祭りが開催されました。みなと祭りの行事のうち港内クルーズの体験乗船は人気のあるイベントで本年も一般都民を募集して実施されました。当研究会では会員のボランティア 4 名により乗船して港内の案内をしました。参加した人たちからは、案内に対して感謝の拍手がありました。

協力した体験クルーズと会員は、次の通りです。

#### サンセットクルーズ

25 日（土）16 時 30 分～17 時 40 分 小屋 功一、手島 道人

26 日（日）16 時 30 分～17 時 40 分 大野 皓一郎

#### レディクリスタル

25 日（土）10 時 30 分～11 時 30 分 落合 和夫



サンセットクルーズの船  
©東京都港湾局

## 平成 25 年度の総会が開催されました

平成 25 年 5 月 23 日（木）に千代田区和泉橋区民館に於いて、議長に小倉理事長を選任して、平成 25 年度の総会が開かれました。下記の議案が提出されて承認されました。

また、高野一男さんを新たに理事に選出しました。

#### 承認された議案

第 1 号議案 平成 24 年度事業報告承認の件

第 2 号議案 平成 24 年度活動決算報告並びに会計監査報告承認の件

第 3 号議案 平成 25 年度事業計画（案）の承認に関する件

第 4 号議案 平成 25 年度活動予算（案）の承認に関する件

第 5 号議案 役員を選任に関する件

### 事務局だより

#### 今後の主な予定

- ① コンテナ海運の動向、若洲等土地利用の再検討、自然回復状況の調査などの研究
- ② 講演会の実施や広報誌の発行など
- ③ 港湾局広報等への協力活動（みなと祭りやイメージアップ事業への協力）など

#### お詫び

清水理事が事情により、活動できなくなり、人手不足のため本機関紙もやむを得ず休刊していました。1 年ぶりの発行です、今後とも人手不足の状態が続きますので従来とおりの発行間隔とはいきませんが、発行に向け、努力しますので御了解くださりたくお願いします。

事務局長 大野 皓一郎 090-6018-1013

事務局 落合 和夫 090-5776-5989

